

MIYAKUBO STYLE

宮久保幼稚園 保育の流儀

おとなは、だれも、はじめは子どもだった。



おとなは、だれも、はじめは子どもだった。

(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもいない。)



この言葉はサン・テグジュペリのお話、“星の王子さま”的プロローグです。私はこのお話、この言葉が大好きで、子どもと共に生活する保育者的心は「星の王子さま」にあると思っています。

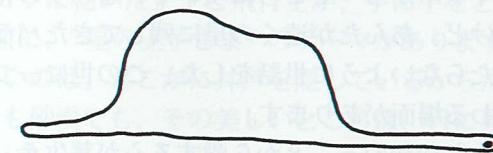
物事があるがままに見て、あるがままに感じ、あるがままに心に刻んでいく子どもたち。

私は子どもたちに、園生活でたくさんの出会いから様々なことを経験して、一度しかない幼児期を思いっきり楽しんではほしいと考えています。

私たちの願い、宮久保幼稚園の教育の心を、「星の王子さま」のお話からご紹介して、私たちの保育の流儀をご理解いただければ幸いです。

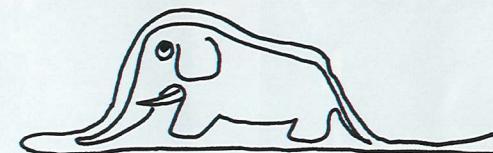
宮久保幼稚園 園長 吉原 正実

★子ども心のあどけなさを持ち続ける人に、育ってほしいと願っています。



この絵はお話の最初にでてくる「ゾウを飲みこんでこなしているウワバミ」の絵です。

大人は絵を見て、帽子だといいました。そこで子どもは、内部のようすを描き、次のような絵を仕上げました。



みやくぼ STYLE 保育の流儀

私たちは子どもの心を理解しようとするとき、ゾウを飲みこんだウワバミの絵に心を寄せることができる保育者でありたいと思います。

そして、子どもたちが大人になったとき、ウワバミの絵を見て笑顔になれる、子ども心のあどけなさを持ち続ける人に、育ってほしいと願っています。



★人を愛する心をもった人に、 育ってほしいと願っています。

王子が仲良しのキツネから「そこに咲いているバラの花は、ただ咲いているだけだ。だけど、あんたが遠くの星に残してきたバラの花は、水をかけたり、風にあたらないように世話をした、この世に一つしかないバラの花なんだ」と教わる場面があります。

この場面から、人とかかわることから愛する心が芽生え、育っていくのだと教えられます。



みやくぼ STYLE 保育の流儀

私たちは子どもたちと接するとき、一人ひとりとのかかわりを大切にして、保育者から“愛された”という気持ちが育つようにふれあうことを大切にしています。

そして、子どもたちが大人になったとき、たくさんの“愛された経験”から、人を愛する心をもった人に、育ってほしいと願っています。



★目に見えない美しさを感じられる人に、 育ってほしいと願っています。

のどがカラカラに乾いた王子と飛行士が、手に手をとって井戸を探して砂漠を歩く場面に、“星の王子さま”的テーマがあります。

「砂漠が美しいのは、どこかに井戸を隠しているからだよ」

「家でも星でも砂漠でも、その美しいところは、目に見えないのさ」

目に見えない美しさ。

それは人としての、ほんとうの美しさです。



みやくぼ STYLE 保育の流儀

私たちは“目に見えない美しさ”を感じることができる保育者であります。

そして、子どもたちが大人になったとき、“目に見えない美しさ”を感じられる人に、育ってほしいと願っています。



★物事を心で見ることができる人に、 育ってほしいと願っています。

お話を結びに、

「大切なことはね、目には見えないんだよ」

「花だって同じだよ。もし、君が、どこかの星にある花が好きだったら、夜、空を見上げる楽しさ知らないよ。どの星も、みんな、花でいっぱいだからねえ」と、あります。

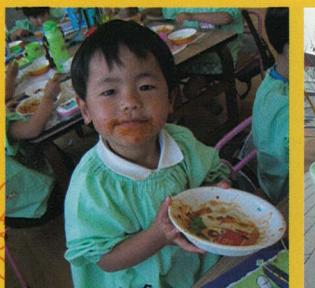
“心で見なければ、物事はよく見えない。肝心なことは、目に見えない。”と、結ばれています。



みやくぼ STYLE 保育の流儀

私たちは子どもたちと接するとき、「みんな、心のなかに、花がたくさん咲いている」と、感じられる保育者でありたいと思っています。

そして、子どもたちが大人になったとき、物事を心で見ることができる人に、育ってほしいと願っています。



宮久保幼稚園の教育目標

卒園までに育てたい子どもの姿（宮久保幼稚園の教育目標）

- 1.人の話を静かに聞くことを理解し、静かに聞ける子どもに育つ。
- 2.善悪の判断を自分で考えることができ、人の嫌がることをしない子どもに育つ。
- 3.人の話を聞いて判断し、行動できる子どもに育つ。

宮久保幼稚園では子ども自ら育っていく環境を大事にして、子どもたちの道徳性の芽生え・学びの芽生えを育していくことが幼稚園の大切な仕事だと考えています。先生と子どもがきちんととかわっていける環境を土台にして、以下の3つの保育の柱から園生活を創っています。

- 「やった できた」という喜びを自分の手と心でつかめる経験。
- 「ひとりじゃない」ということを感じ取ることができる生活。
- 「知りたい」という興味や欲求を育てるプログラムを用意すること。

■3つの柱を具体的にする教育計画のポイント

1. 先生の役割

先生は子どもたちに、①良く説明をして ②やって見せて ③心を啓発できるよう話し、伝え、接することが大切だと考えています。

2. 園生活の役割

園生活では、先生や友達とのふれあい、かかわりの中から、様々な遊びや活動に出会い、実際に体験し、心に刻んでいくことが大切だと考えています。具体的には次の視点からとらえています。

①子ども自身が自由に選んで行う活動

この活動から、子どもたちの自主性・自発性を育てていきます。

②先生が意図的に経験させる活動

この時期に身につけさせたい技能や能力・興味や習慣・人としてやって良いこと悪いこと・知育（もじ・かず）などを園生活の活動から伝え、一人ひとりの個を育てながら、じっくり何かに取り組む姿勢をはぐくんでいきます。

3年間の教育のねらい

年少児で育てたい姿 園生活に慣れ、様々な活動に安定して取り組む。

年中児で育てたい姿 たくさんの友達とかかわり、興味と経験を広げる。

年長児で育てたい姿 友達との連帯感を深め、自己課題に主体的に取り組む。

園庭環境

1 芝生の園庭

幼児施設の庭は子どもたちが転んでも怪我をしないように土が多く使われていますが、すぐに乾き砂ぼこりが舞い上がり、霜にも弱いという欠点もあります。

宮久保幼稚園では園庭も含めたトータルな保育環境を整えたいと考え、園庭の中心にはティフトン芝（洋芝）をオーバル状に植え込み、スプリンクラーを埋設設置しました。そして排水浸透パイプを埋設して水はけを良くしました。簡単にいえば、陸上競技場と同じ構造になっています。

子どもの頃、いたるところにあった草っぱらの広場を作りたいと考えた園長の願いから園庭環境を整えました。



排水浸透パイプ
この部分に埋設しています。



2 ボードウォーク

ボードウォークは雨の日の動線（ぬかるんだ園庭を通らなくても玄関に行かれ）を考え、計画したものです。軽井沢にあるプリンスホテルショッピングモール（アウトレット）の店舗をつなぐ通路と同じ形状で、同じ素材、同じ役割の道です。歩くと軽井沢の音が聞こえ、風が吹くと思っていますが、皆さんはどんな音や風が聞こえますか？

子どもたちは毎朝、園庭を通らず、うさぎ小屋横のボードウォークから保育室へ向かいます。ベビーカーのお母さんも快適に玄関まで行かれ好評です。芝の養生にも役立っています。



3 おひさまランド・おひさまテント

園庭のアスレチック遊具周辺は、「おひさまひろば」と呼ばれています。特注の砂場ツリーハウスや総合アスレチック遊具は子どもたちに大人気です。そして北ウイングの隣には多目的な全天候広場「おひさまテント」があります。

雨天時の屋外活動や夏のプール活動（紫外線対策）に利用されています。



4 “さくら”を園舎に組み入れて

開園当初に植えられた桜を園舎と一体化してシンボルとしています。この桜の周りに子どもたちが楽しめる空間がいくつかあります。春だけでなく、四季折々で園生活を彩る場所となっています。

✿ さくらテラス

桜を囲む空間（さくらデッキの下）がさくらテラスです。さくらテラスにはさくらガーデンがあり、桜と小人たちが気持ちのよい中庭を構成し、気持ちを和ませてくれます。子どもたちはこのテラスで、さくらランチやお弁当をオープンカフェ風に楽しめます。また、お花見やクリスマスなどの季節行事を彩る広場として使われています。



✿ さくらデッキ

年長児の玄関、おひさまホールの出入口へつながる2階部分は「さくらデッキ」と呼ばれています。薄もも色の花が咲く春、子どもたちの進級・入園をお祝いし園内を明るく彩ってくれます。そして階段横に設置された避難用滑り台は「年長さんにならないと滑れない」滑り台で、「年長さんに早くなって滑りたい！」という憧れも、さくらデッキははぐくんでいます。



園舎環境

1 心をはぐくむ空間構成

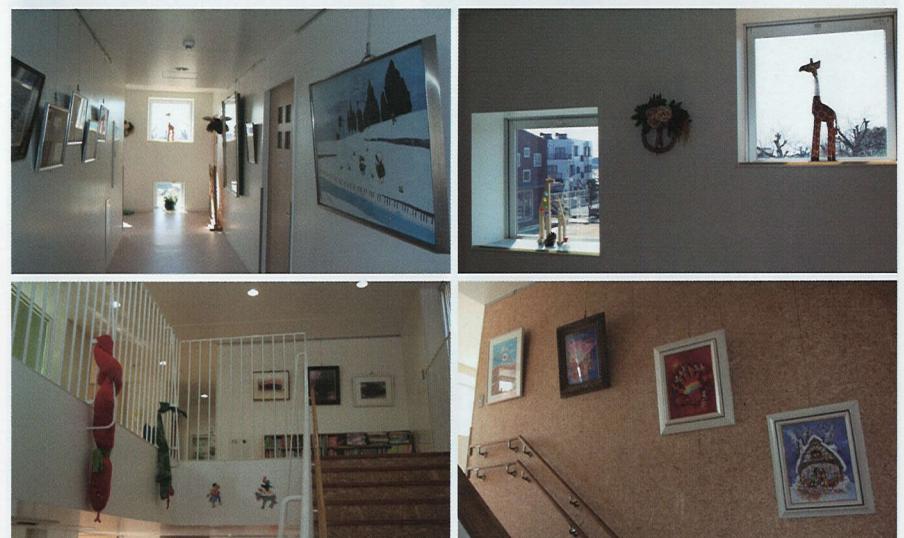
園舎内の環境で大切にしていることは「明るく、光に満ちあふれ、ゆったり時間を使せる空間」です。このため廊下を広く取り、ロッカーなどの家具は置かず、保育室の一部として使えるような環境としました。

そして絵や造形物が何気なく飾られている、美術館のような演出の空間構成となっています。



2 美術館のように

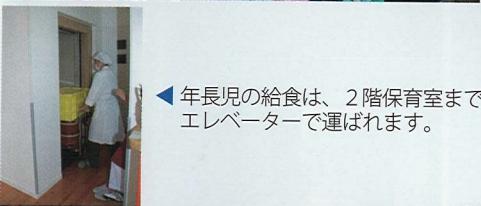
子どもたちの感性を育み、情操を豊かにするために、園舎内にはたくさんの絵や造形物が飾られています。園長・副園長が絵本の編集者だったこともあり、谷内六郎・黒井健・伊藤悌夫さんなどの多数の原画が四季折々のテーマで展示されています。



3 さくらカフェとさくらランチ

宮久保幼稚園では園舎新築の機会に園舎内で調理する給食をはじめました。この給食を園舎のシンボルとなっている桜にちなんで、「さくらランチ」と呼んでいます。そして保育室以外でクラスみんなが楽しめる空間（小ホール）で、語らいながら食事を楽しむことができるランチルームを作りました。シンボルの桜の木が見えるランチルームは、「さくらカフェ」と呼ばれています。温かな料理を友達と語らいながらみんなで楽しく食べる。こうした園生活を楽しんでいます。

前述のさくらテラスと共に、さくらカフェは子どもたちの大好きな空間です。初めて食べた年長児が「今日はレストランみたいなところで食べたよ」とお母さんに話したそうです。「家庭では経験できないことを経験できる幼稚園」は、宮久保幼稚園の基本コンセプト。さくらカフェやさくらテラスで食べるさくらランチは、家庭では経験できない子どもだけの素敵なおいしい時間となっています。



◀年長児の給食は、2階保育室までエレベーターで運ばれます。



4 セキュリティー

園内の様々なところに防犯カメラが設置され、子どもたちの安全を守っています。正門は電子錠でロックされ、カメラ付インターフォンで事務室へ連絡して許可をもらわないと園内には入ることのできないセキュリティーシステムになっています。

5 おひさまホール

北ウイング2階に大ホール“おひさまホール”があります。名前の由来は、南向きのお日さまがサンサンと降り注ぐ部屋となっているからです。

3つの区画（3部屋）に分けて使うことができ、2歳児クラスのぱれっとや0・1歳児クラスのピュア、入園式や誕生会、小音楽会などの行事に合わせて縦方向・横方向にレイアウトを変え使用できるように設計されています。



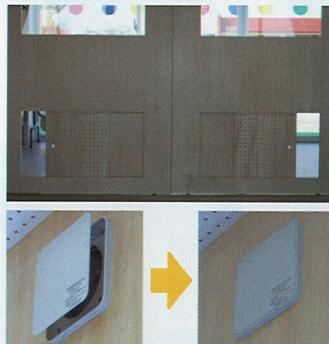
保育環境

1 生活の空間

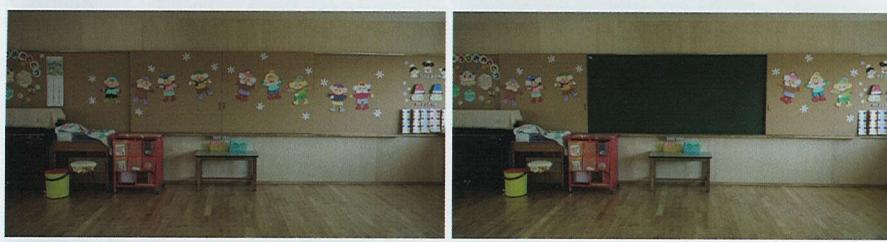
子どもたちの園生活の大部分をしめる保育室は、クラス単位を大事にしながらもオープンな空間としても使えるように廊下側の戸を工夫しました。そして照明はLEDを採用して環境にやさしい、ECOな保育室となっています。

そして自然な風の流れを大切にして、換気にも様々な工夫をしました。

また保育室と廊下を分ける壁は作らず、扉のOPEN & CLOSEで、様々な活動や内容に合わせた環境を作れるようになっています。



▲保育室扉の下部には換気の小窓、壁にはon・offができる換気口を設置。照明はLED。



▲壁面が可動し、使用しない時は壁面。開ければ黒板が現れ、保育室の中心が意識できます。

2 衛生施設・家具・サイン

快適な生活空間とする要素に衛生施設（トイレ・手洗い）・家具・サイン（表示や名札）があります。

トイレや手洗いは発達年齢に合わせ、基本的な生活習慣の自立が不十分な年少は保育室に直結させ、年中・年長は保育室から離れた場所に設置しました。明るい乾式のトイレで、抵抗感なく行くことができるよう配慮しました。

また家具はすべてオリジナルで設計し、製作しました。ロッカーは1人分の持ち物が1か所ですべて整理・収納できるようにしました。上段には用品、下段には衣類やカバンを収納します。そして机と椅子は宮久保幼稚園オリジナルで、韓国で製作し輸入しました。質の高い製品が、低価格で手に入りました。

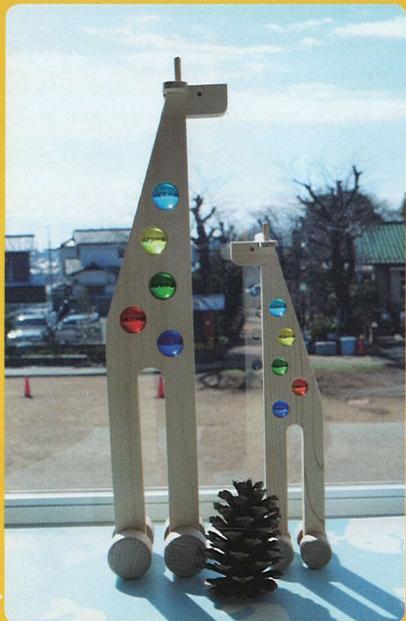
場所を表示するサインもすべてオリジナルで作りました。市販にはない絵やデザインになっています。



▲園児用家具はオリジナルに設計し製作したもの。家具は日本で、机と椅子は韓国で製作しました。



▲園舎内のサインもすべてオリジナルにデザインして作成しました。



MIYAKUBO STYLE

宮久保幼稚園 保育の流儀



学校法人吉原学園 宮久保幼稚園

〒 272-0822

千葉県市川市宮久保6丁目7番2号

T E L 047(371)7320 U R L <http://miyakubo.jp>